

第4回 Clinical AI 外部評価委員会 講評

令和6年7月4日(木)に Clinical AI 外部評価委員会を開催し、第4回外部評価委員会を開催した令和5年6月から令和6年6月までの Clinical AI の取組状況についてレビューを行った。

この高度人材育成プロジェクトは医療系大学院博士課程に設置され、正規課程学生とインテンシブコース生を対象としたものであり、これら学生がこのプロジェクトでの就学後に「Global×Local な医療課題解決を目指した最先端 AI 研究開発」を高いレベルで実践できるようになることを大きな目的としている。そのため、プロジェクトの真の成果を判断するためには、本課程に入学した者がどのように医療現場で AI を活用し活躍しているかをレビューすることが必要であるが、それに至るプロセス等を評価することも、同じく重要と考えられる。

従って、今回の外部評価委員会においては、各大学における受講生の量的状況、教育実施状況、個別の取組み、指導体制、第3回外部評価委員会での指摘事項への対応、令和6年度の事業予定についてレビューを実施した。

以下、各委員からの意見である。

○プロジェクトの進捗について：

正規課程生やインテンシブコース生は KPI を大きく上回っており、定量的な目標をクリアしていると言える。3大学や他拠点との連携を例年以上に活発に行い、産学官や国際交流も推進したといえる。また第3回外部評価委員会での指摘事項についても十分に対応したところが高く評価ができる。全体としてプロジェクトの進捗は良好であり、大きな成果をあげているといえる。

○今後の予算獲得について

大学発ベンチャー等、新しい事業を大学から生み出すことで次の財源を確保するような流れがあると思うため、本事業からもスタートアップが生まれることを期待する。

○社会実装について

社会実装にあたり、チューニング・標準化が重要になってくるため、医療情報システム分野、部署と連携を強化することに加え、病院内でのチューニングできる人材を育ててほしい。スピード感が重要な分野のため、本事業から生成 AI などを用いた診療支援などの臨床応用・社会実装が早期に生まれることを期待する。

○法制化に対する対応について

AI の安全な利用に関する法制化の部分は今政府を中心に、非常に活発に議論が行われているところであるが、本事業からも積極的に意見等を発信するとともに、引き続き AI リテラシー教育を続けていってほしい。

以上を踏まえ、総評としては次のとおり評価する。

- ・プロジェクトの進捗は良好で前回指摘点への対応を含め大きく成果を上げており、高く評価する。
- ・新たな予算獲得について、大学発のスタートアップが生まれることを期待する。
- ・社会実装の早期実現を期待するとともに、社会実装実現のための人材育成・教育についても大いに期待している。
- ・法制化に対して本事業から積極的に発信を行うとともに、AI リテラシー教育については、引き続き取り組んでいってほしい。

令和6年7月4日

Clinical AI 外部評価委員会

委員長 八重樫 伸生